

平成20年度後学期 学生による授業評価アンケート調査（最終）

「アンケート結果に応じて」

| | | | | | |
|---|------------|-------|------|--------|-----|
| 所属部局 | 人文学部 | | 氏名 | 大村 光弘 | |
| 講義コード | 2332009010 | | 講義名 | 英語学概論Ⅱ | |
| 開講曜日 | 火曜日 | 5・6時限 | 専門科目 | | |
| 授業回数 | 15回 | 休講回数 | 0回 | 補講回数 | 0回 |
| | | | | 受講登録者数 | 29人 |
| 成績評価に際し注意した事項 | | | | | |
| <p>評価が面的ではなく、総合的になるようにしている。受講生からの成績評価基準や方法についての問い合わせに対応する（評価基準・評価方法の開示）</p> | | | | | |
| 報告内容 | | | | | |
| <p>数名であったが授業に対する意見を書いてくれた受講生がいたので、まず初めに記述意見についての感想を述べたい。毎年感じる事として、受講生の間で授業の進捗や難易度に対する感じ方が異なることがあげられる。進捗が速いと感じる受講生もいれば、遅いと感じている受講生もいる。難しいと感じている受講生もいれば、簡単すぎると感じている受講生もいる。授業の進捗や難易度はクラスの平均的學生に合わせざるを得ないので、どうしてもこの問題は避けられないようである。今回も、この問題を解消する具体案は見つからない。</p> <p>つぎに、アンケート結果において「學生が重要であると考えているが、満足度は低い項目」として分析されている①「授業の進捗が適切である」、②「學生に公平に接していた」、③「授業を受けて知識・技術が身に付いた」、の3点について感想を述べたい。</p> <p>①については、上記の問題とも関連するが、進捗や難易度について受講生の受取方が様々であるので、実質的な改善は不可能である。因みに、満足度を下げている要因は（進捗が速いと感じていた）受講生が1名（全体の3%）いて、「C+」をマークしていたためである。他の受講生は全員「B+」以上をマークしていた。受講生評価の分布状況と実際の診断結果を比較すると、カルテの計算方法に疑問を持たざるを得ない。</p> <p>②についても、満足度を下げている要因は、「C+」をマークした受講生が1名、「C」をマークした受講生が1名いたためである（全体の7%）。他の受講生は全員「B+」以上をマークしていた。授業の中で予習状況や学習態度について指導することがあるが、得てして当該受講生の授業に対する印象は悪くなる。とは言え、今回のアンケート調査において「不当な扱いを受けた」という苦情は無かったので、分析結果に対する原因特定は推測の域を超えるものではない。</p> <p>③についても、満足度を下げている要因は、「C+」をマークした受講生が1名（全体の3%）いたためである。他の受講生は全員「B+」以上をマークしていた。受講生評価の分布状況と実際の診断結果を比較すると、ここでもカルテの計算方法に疑問を持たざるを得ない。</p> <p>最後に、「學生はさほど重要でない」と捉えており、満足度も低い項目」として分析されている「授業の何度は妥当である」について感想を述べたい。正直、受講生がこの項目に重要度を感じていないという分析上の結果に疑問があるが、満足度が低いという結果に意味があるのならば改善に向けて対応しなくてはならない。但し、評価の分布状況を見てみると、全員が「B-」以上の評価を下しているので、「難しすぎた」でもなく「易しすぎた」でもない授業であったと解釈できる。最初に述べた問題があるので、このことは今回の授業に関して良かった点として自己評価できるのではないかと。</p> | | | | | |